

オーディオブック

全文朗読CD版

世代を超えて日本人の魂を揺さぶりつづけるダイナミズム
一大巨篇

三国志

原作 吉川英治

朗読 橋爪 功

登場する人物の生き方や逸話
数々の名場面や名言の全てを
余すところなく読むように聴く

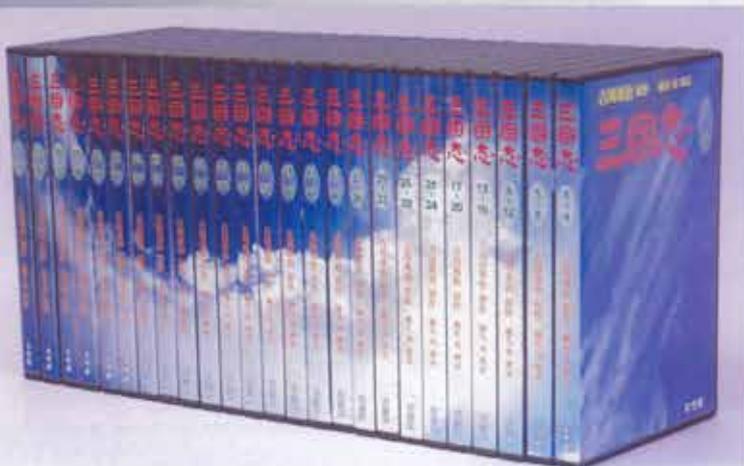
圧巻 CD全100枚

「三国志」史上 世界初の壮挙

時を忘れる

至福の

108時間



販売：大空社出版

(発行：大空社)

オーディオブック

三国志

原作者 吉川英治
朗読者 橋爪 功

偉大な国民的作家による不朽の名作
その豊饒な語りの世界に踊る
無慮数千の個性——
名優・朗読の名手が
人の呼吸をそのままに
いのちを吹き込んだ

朗々たる全 108 時間

「三国志」 遡ること一八〇〇年、中国を舞台とするこの歴史物語は、古来、詩歌・小説などの読み物、演劇・歌舞伎・人形劇、また最近のマンガ・ゲーム・映画と、時代と国を超えて様々に形を変え、繰り返し語られていく。他国の遠い昔の物語が、こと日本人の心をこれほどに捉えるのはなぜか——。日本人が「三国志」と聞いてまつ先に思い浮かべるのは、



桃園の巻 孔明の巻 関南の巻
赤壁の巻 出師の巻
群星の巻 赤壁の巻 五丈原の巻
草莽の巻 望蜀の巻 篇外余録

「吉川・三国志」から大きな影響を受けた歴史家・文筆家・政治家・財界人・宗教者・芸術家などの文化人は枚挙にいとまがなく、なにより愛読し人気を支えてきた一般大衆は計り知れない数にのぼる。戦前に書かれ半世紀以上も読み続けられる秘密は、物語の面白さであることはもちろんだが、他ならぬ「ことば」がいつまでも生氣を失っていないことが根底にある。「吉川・三国志」の真価は、そしてここに、激情、憤怒、落胆、猜疑、辛苦、逡巡、克己、信義、忠誠、希望、愛情、友情、純心、安堵……あらゆる人間の感情と思念が渦巻く混沌世界に、いままでにならぬ新しい「いのち」が吹き込まれた。しかも、

全文朗読一〇八時間という壮挙。

「声」による（映像・文字を介さない）純粹に「ことば」のみの宇宙へ朗読。耳から受けた「ことば」の世界は、他の五感を圧して想像力の翼を広げてゆく。いつしか、親しんだ「吉川・三国志」の世界にどっぷりつかかり、至福の時に身をまかせている自分に、読者も聴き手は気づくに違いない。

吉川英治「三国志」

を措いて
ほかにない。

二度と実現できない最高のめぐり合わせ

■原作者 吉川英治 よしかわ・えいじ

1892（明治25）〜1962（昭和37）年。神奈川県生まれ。家運の傾きで小学校中退後、さまざまな職に就きながら投稿・執筆を重ね、1925年「剣難女難」で人気を得ると、「鳴門秘帖」で一躍流行作家に。35年より「宮本武蔵」続いて「三国志」を紙上に連載、戦後は「新・平家物語」「私本太平記」など大作を続々発表。没後半世紀近く経ても人気は衰えることを知らず、まさに国民的作家として多くの読者の支持を受けている。60年文化勲章受章。

■朗読者 橋爪 功 はしづめ・いさお

1941（昭和16）年大阪府生まれ。文学座、劇団「雲」を経て、75年、芥川比呂志、岸田今日子らと演劇集団「円」の設立に参加。「スカパンの悪だくみ」以後、数々の舞台で活躍。独特の個性と演技力で、映画「お日柄もよくご愁傷さま」や「マルサの女」、テレビドラマ「赤かぶ検事」シリーズ等、主演・出演多数。また、朗読の名人として数多くの作品をこなし、絶大な評価を得ている。

万人の至宝 待望の刊行！
読んだ人に、
今まで読めなかった人に、

NHKラジオ

●音源
「吉川英治名作選」（平成5年9月〜8年7月放送）
放送当時から大反響、再放送・商品化を望む
多数の声が寄せられていた名朗読。
〈朗々たる全108時間 完全収録〉

これはもう、あなたの生涯の「宝」です！

- 混沌の時代を生きぬき、充実して生きる知恵の充溢 ●人生訓の宝庫 ●人間関係・社会の考察に ●経営者として、部下として ●政治に関わる人に ●素養・教養として ●将来を担う若者に ●女として、男として ...
- 通勤・通学の道すがらに ■ドライブ・旅行の伴に ■療養生活に ■ちょっとした休日に ■余暇に ■ゆとりある人生に ■日本語の勉強に ...

「吉川・三国志」
全文朗読版

製品概要

体裁 ●CD 100 枚（1枚平均約65分収録）＝ケース（各CD 4枚入／193mm×136mm／25ケースを特製函に収納）

●ガイドブック 《内容（含収録）》 刊行に寄せて…吉川英明（吉川英治記念館館長）・橋爪功／吉川英治・原作序文／全巻内容（目次）／「吉川・三国志」刊行の流れ／主要音訓語彙集（登場する人名・地名、難解語句等の五十音順一覧）／関連地図 など
*原作本は付いていません。

価格 259,809 円（本体 236,190 円＋税 10%） ©Eimei Yoshikawa
（分売不可） 企画協力 (株)JLC
ISBN978-4-283-00624-9 空・雲写真 skyseeker.net

販売：大空社出版

（発行：大空社 2009年）

〒114-0032 東京都北区中十条 4-3-2
TEL: 03-5963-4451
FAX: 03-5963-4461
URL: <http://www.ozorasha.co.jp>
E-mail: eigy@ozorasha.co.jp

三国志

今を遡ること一八〇〇年、中国を舞台とするこの歴史物語は、古来、詩歌・小説などの読み物、演劇・歌舞伎・人形劇、また最近のマンガ・ゲーム・映画と、時代と国を超えて様々に形を変え、繰り返し語られている。他国の遠い昔の物語が、こと日本人の心をこれほどに捉えるのはなぜか――。

日本人が「三国志」と聞いてまつ先に思い浮かべるのは、

吉川英治「三国志」

を描いてほかにない。

「吉川・三国志」から大きな影響を受けた歴史家・文筆家・政治家・財界人・宗教者・芸術家などの文化人は枚挙にいとまがなく、なにより愛読し人気を支えてきた一般大衆は計り知れない数にのぼる。戦前に書かれ半世紀以上も読み続けられる秘密は、物語の面白さであることはもちろんだが、他ならぬ「ことば」がいつまでも生気を失っていないことが根底にある。「吉川・三国志」の真価は、日本語そのものが持つ「いのち」である。

偉大な国民的作家による不朽の名作
その豊饒な物語りの世界に踊る 無慮数千の個性——

名優・朗読の名手が
人の呼吸をそのままに いのちを吹き込んだ

朗々たる 全108時間

〈朗読〉

「声」による

映像・文字を介さない

純粹に「ことば」のみの宇宙——

耳から受けた「ことば」の世界は、
他の五感を圧して
想像力の翼を広げてゆく。

そしてここに、激情、憤怒、落胆、猜疑、辛苦、逡巡、
克己、信義、忠誠、希望、愛情、友情、純心、安
堵……あらゆる人間の感情と思念が渦巻く混沌世
界に、いままでにない新しい「いのち」が吹き込
まれた。しかも、全文朗読一〇八時間という壮挙。
いつしか、親しんだ「吉川・三国志」の世界にとっ
ぷりつかかり、至福の時に身をまかせている自分に、
読者も聴き手は気づく。

史上初

全文朗読

三国志

新たな「三国志」の記憶

三国志には、詩がある。

単に、龐大な治乱興亡を記述した戦記軍談の類でない所に、東洋人の血を大きく搏つ一種の諧調と音楽と色彩とがある。

三国志から詩を除いてしまつたら、世界的といわれる大構想の価値もよほど無味乾燥なものになろう。

故に、三国志は、強いて簡略にしたり抄訳したものでは、大事な詩味も逸してしまうし、もつと重要な人の胸底を搏つものを失くしてしまうおそれがある。

で私は、簡訳や抄略をあえてせずに、長篇執筆に適当な新聞小説にこれを試みた。そして劉玄德とか、曹操とか関羽、張飛のほか、主要人物などには、自分の解釈や創意をも加えて書いた。随所、原本にない辞句、会話なども、わたくしの点描である。

『三国志』「序」より

●原作
吉川英治



●朗読
橋爪功



いったい何人の人物達が現れては消えていったことか、遙かな昔、遠い国の人間達、愛すべき男や、いと美しい女、嫌な奴や小賢しい者達、それこそ枚挙にいとまがない人物達が右往左往し、時に宗筆を誇り、衰え、滅ぶ、その奥に吉川英治という作家の大きな、とてつもなく温かい目が注がれている。そして、まさにその事が僕を奮い立たせ、足掛け三年にも及ぶ大仕事をやり遂げさせてくれた原動力だったと、今あらためて感じている。

「吉川さんの息遣い」(別冊「三国志・ガイドブック」所収)より

プロフィール

●よしかわ・えいじ 1892年(明治25) 神奈川県久良岐郡(現横浜市南区)生まれ。本名英次。家運の傾きに伴い小学校中退後、印章店奉公、印刷工など、諸種の職業に就く。かたわら、俳句・小説などの投稿・執筆を重ね、25年創刊の雑誌「キング」に連載された「剣難女難」(初めて英治の筆名を使用)、つづいて26年、「鳴門秘帖」で一躍流行作家となる。35年より「朝日新聞」に「宮本武蔵」、38年から「読売新聞」に「新書太閤記」、さらに39年より43年にかけて地方五紙に「三国志」と、代表作となる大作を続々連載。終戦後一時筆を断つも、根強い支持により再開、「新・平家物語」「私本太平記」ほか執筆に心血を注いだ。60年文化勲章受章。62年(昭和37)、70歳で死去。今なお国民的作家として多くの読者を得ている。

●はしづめ・いさお 1941年(昭和16) 大阪府生まれ。東京都立青山高校卒業後、61年、文学座付属研究所に入所、62年、文学座、63年、劇団「雲」を経て、75年、茶川比呂志、岸田今日子らとともに演劇集団「円」の設立に参加。「スカパンの悪だくみ」で注目を浴び、以後、数々の舞台で活躍する。最近作では「レインマン」「死の舞踏」「パイパー」、映画では「お日柄もよくご愁傷さま」や「マルサの女」「あけまん」など、多くに出演。独特の個性と演技力を買われ、ドラマ出演も多数、主演作に「新・赤かぶ検事奮戦記」シリーズ、「京都迷宮案内」などがある。また、朗読の名人として数多くの作品をこなし、その評価は絶大である。

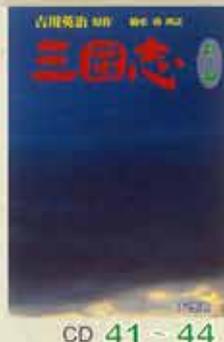
三國志

全文朗読CD版

全100枚

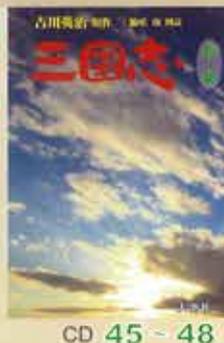
魏 蜀 吳 三國 鼎立

一卷に惚ばせて、
うたたしんじ
転深思の感慨に耽らしめる魅力がある。
ふけ
——吉川英治



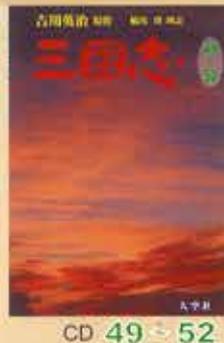
CD 41 - 44

孔明の巻・統 邯鄲／野に真人あり／遼西／遼東／食客／檀溪を跳ぶ／琴を弾く高士／吟嘯浪士／軍師の鞭／徐庶とその母／立つ鳥の声／諸葛氏一家／臥龍の間 ●曹操は北方夷狄を攻略、劉表から跡を託される玄德はあくまでも峻拒、襄陽の会などを逃れ新野を本拠とする。そこに迫る曹操軍を追い払ったのは徐庶だったが、曹操は徐庶をその母の偽手紙で許都に呼び寄せる。徐庶が玄德の元を去るとき、臥龍として名が聞こえる諸葛亮（孔明）の存在を玄德に教える。



CD 45 - 48

孔明の巻・統 孔明を訪う／雪千丈／立春大吉 ●玄德は隠棲する孔明を尋ね三度目にして会えた。切々と万民俗衆の救済を願う玄德に打たれ孔明は臣となり、玄德の選ぶ道として西蜀五州を獲り魏・呉に互する策々天下三分の計を説く。曹操は荆州の劉表の後継劉琮と蔡婦人を降伏させ、滅した。軍師孔明を得た玄德と曹操軍との攻防が激化する。



CD 49 - 52

赤壁の巻・統 宝剣／長坂橋／一帆呉へ下る／舌戦／火中の栗／醉計二花／大号令／殺地の客／狂瀾／群英の会 ●趙雲は玄德の幼君阿斗（劉禪）を抱え逃れ、曹操の厳しい追撃のなか、劉琦の援軍と孔明の計により、玄德は江夏へ入城する。曹操は呉・孫権へ強硬に降伏を迫る。和平を主張する呉の群臣は、玄德の命を受けた孔明の巧みな舌鋒の前に屈服され、孫権はついに出師を決意する。大都督は周瑜、水戦に明るい呉軍は、霧中をもものとせず、弩弓・石砲の嵐で曹操軍を迎える。



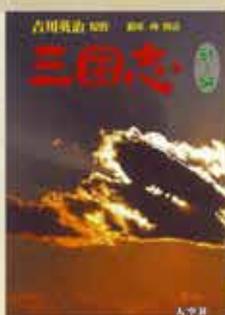
CD 53 - 56

赤壁の巻・統 陣中戲言なし／覆面の船団／風を呼ぶ杖／一竿釣／翼の裏／鳳雛・巢を出ず／竹冠の友／月鳥賦／鉄鎖の陣／孔明・風を折る／南風北祭 ●周瑜は明察の孔明を恐れ十日で十万の矢を作れと命じるが、切り抜けた孔明と共に曹軍に火作戦を画策、鉄鎖に連ねられた大艦隊が呉岸へ押し寄せ、火攻めには季節はずれの南風が待望された。孔明は折りの行を、そして東南風を呼ぶ。そして魏の大艦は巨大な火焔となり沈没、曹操大敗。



CD 57 - 60

望蜀の巻・統 山谷笑う／功なき関羽／一擲三城／白羽扇／黃忠の矢／針鼠／柳眉劍誓／驚雷陣 ●曹操は荆州を旨指す。関羽は命からがら敗走する曹操を昔日の恩で見逃す。大勝した呉は江北へ渡り曹仁の護る南郡を攻めるが、襄陽などはすでに玄德の手中に落ちていた。玄德は荆州南四郡も平定する。劉表が没するも荆州の所領をめぐり呉と玄德は押し問答になる。玄德は、蜀を得た曉に荆州を呉に返す約束する。呉は孫権の妹を玄德に嫁がせようと画策、玄德は受けた。



CD 61 - 64

望蜀の巻・統 朝の月／瘴ヶ嶺の剣／周瑜・氣死す／文武競春／荆州往来／鳳雛去る／醉草令／馬騰と一族／不俱敵天／渭水を挟んで／火木金土／敵中作敵／兵学談義 ●同族劉璋を攻めにくい玄德に代わり呉が蜀へ入ることに。周瑜没し魯肃が大都督、龐統が副将軍となり荆州は万全。曹操は玄德を恐れ北方涼州に討伐を命ずる。玄德が蜀を望むとの報に曹操は呉に復讐を企図。それを孔明は西涼の馬超らを引きつけて止めようとするがならず。曹操は朝廷をさらに掌握。



CD 65 - 68

望蜀の巻・統 蜀人・張松／孟徳新書／西蜀四十一州図／進軍／鴻門の会に非ず／珠 ●蜀は天産豊かな文化の地。漢中張魯の脅威の前に劉璋は玄德を迎えようとする。孫権は曹操の南下で建業へ遷都、守りを固める。曹操は魏公を称するが呉には連敗つづき、蜀に代わり漢中との境を守備する玄德は劉璋に援助を請うが得られず激怒、成都攻略に向かう。張飛の先導で成都へ無血で入る。



CD 69 - 72

関南の巻・統 金雁橋／西涼ふたたび燃ゆ／馬超と張飛／成都陥落／臨江亭会談／冬葉歌々／漢中併呑／剣と戟と楯／連来々／驚毛の兵／休戦／柑子と牡丹／藤花の冠／神卜 ●關西で暴れる馬超は魏に追われ、蜀を助ける漢中軍に入るも、玄德軍に降伏、玄德の成都入城に力を貸す。玄德は初めて自らの国を得る。西蜀四十一州は栄えた。呉は荆州返還を玄德に求める。曹操は国算になる。漢中も得る。曹操は呉に荆州三部を分け修交。



CD 73 - 76

関南の巻・統 正月十五夜／御林の火／陣前公用の美酒／敗将／老將の功／絶妙好辭／一脱傷折／趙子龍／夜男影／驚助／漢中王に昇る／烽火台 ●許都では漢朝の忠臣が謀叛を企てるが魏王曹操に滅滅される。玄德は漢中を得ようと出兵、曹操と対する。漢水岸、魏蜀の野戦で曹操の退陣つづき、玄德は四川から広城を領し、魏兵に並ぶ強国となり漢中王に即位、対する魏兵は同盟を結び、蜀を孤立させようと相互不可侵を約す。魏は荆州襄陽が関羽に陥落するのを許してしまふ。



CD 77 - 80

関南の巻・統 生きて出る／関平／七軍魚船となる ●樊城で関羽は魏を退けるが傷を負う。魏は呉に関羽を攻めるよう進言、呂蒙がなんなく落し、呉は多年の望み、荆州を版図に加えた。関羽は首が届けられ、関羽は倒される。関羽の首が届けられた魏は関平にふす。ほどなく曹操は没し、魏は長子曹芳に継がれた。



CD 81 - 84

出師の巻・続 七歩の詩／私情を斬る／改元／蜀また傲う／桃園終春／雁のみだれ／呉の外交／この一戦／冬將軍／尉藍大望／一書生／白帝城／石兵八陣／孔明を呼ぶ／遺孤を託す ●曹丕は献帝から帝位を譲られ魏帝誕生後漢滅ぶ。玄徳は蜀皇帝を宣言。さらに關羽の仇討ちに呉へ出兵。張飛は不慮の死。孫權は魏帝から呉王に封せられる。敗退つづく。呉は陸遜を蜀討伐に向かわせる。玄徳は追われ白帝城に逃げ込む。病の玄徳は後事を孔明に託し息を引き取る。太子劉禪が蜀皇帝に



CD 85 - 88

出師の巻・続 魚紋／蜀呉修交／建維絶力／淮河の水上戦／南蛮行／南方指掌図／孟獲／輸血路／心縛／孔明・三擒三放の事／王風羽扇／毒泉／蛮娘の踊り／女傑／歩く木獸／藤甲蛮／戦車と地雷 ●玄徳没後にわかに魏が仲連の策で五路から侵攻。蜀呉同盟なり。魏は呉に互する大艦隊を造り対戦するが、長安も蜀に攻められ、大敗。蜀は孔明が幼帝劉禪を助け平和だった南方で蛮賊が暴れ不穏。孔明は暑熱密林深く幾千里と征伐をつづけた末、南蛮王を従わせた。



CD 89 - 92

出師の巻・続 王風万里／鹿と魏太子／出師の表
五丈原の巻 中原を指して／美丈夫姜維／祁山の野／西部第二戦線／魏家全慶／洛陽に生色還る／高樓彈琴 ●魏では曹丕が突如没し、その子曹叡が帝を継ぐ。成都に帰還した孔明は北伐断行を帝に奏し、漢室復興、旧都奪還を目指した。備え十分な孔明は大軍をもって出発、蜀は勢いを落とさず進む。魏は司馬懿仲連を頼みとして孔明に向かわせた。孔明が恐れるのは仲連のみ。漢中のノド街亭で魏蜀はまみえた。



CD 93 - 96

五丈原の巻・続 馬謖を斬る／髪を捧ぐ／二次出師表／二度祁山に出づ／食／魏兵之印／司馬仲連計らる／天血の如し／長雨／賭／八陣展開／龍／麦青む／北斗七星旗／木門道 ●孔明は街亭大敗の因である馬謖を裁き法の尊厳を守ると、成都へ帰り捲き重來を期した。後出師の表をのぼせると再び祁山に陣をとる。極寒、降雨、兵糧戦、間諜戦の応酬、駆け引きがつづく。孔明は仲連を退けるが、魏兵に密約がなつたとの報に急遽漢中の劉禪のもとへ急ぎ帰るが…



CD 97 - 100

五丈原の巻・続 具眼の士／木牛流馬／ネジ／豆を蒔く／七盞燈／水火／女衣巾幗／鉄河の禱り／秋風五丈原／死せる孔明、生ける仲連を走らす／松に古今の色無し
番外余録 諸葛菜／後蜀三十年／魏から晋まで ●孔明は三年間内政拡充に務め、六度目の祁山出陣だが苦戦、呉蜀同盟に頼む。魏は防呉作戦に、三原を望む五丈原へ移るが、過労がたたり、後事を託し没した。五四載。「孔明の死を以て、完尾」



●別冊 **ガイドブック** (四六変型判・約80頁)

《内容》刊行に寄せて…吉川英明(吉川英治記念館館長)・橋爪功/吉川英治・原作序文/全巻内容(目次)/「吉川・三国志」刊行の流れ/主要音訓語彙集(登場する人名・地名、難解語句等の五十音順一覧)/関連地図 など

■音源■

NHKラジオ

「吉川英治名作選」

(平成5年9月～8年7月放送)

放送当時から大反響、再放送・商品化を望む多数の声が寄せられていた名朗読。

〈のべ約108時間 完全収録〉

* 原作と厳密に校合の上、修正、調整などを行い、できるだけ音源としての質を確保したものを原盤とした。

これはもう、
あなたの生涯の
「宝」です！

すでに読んだ人も、今まで読めなかった人も

●それぞれの目的で――

- 人生訓の宝庫
- 人間関係・社会の考察に
- 経営者として、部下として
- 政治に関わる人に
- 素養・教養として
- 将来を担う若者に
- 女として、男として など

■こんな時に――

- 通勤・通学の道すがらに
- 職業ドライバーのお伴に
- ドライブ・旅行のお伴に
- 療養生活に
- ちよつとした休日や余暇に
- ゆとりある人生に
- 日本語の勉強に など

混沌の時代を生きぬき、
充実して生きる知恵の充溢